



学校だより はんたましい

西原町立坂田小学校
令和5年5月12日
校長 松川 邦昭
児童数 864名



5月号



花薫る五月、子どもたちの 意欲や好奇心を高めたい

一学期が始まって早一ヶ月が過ぎました。時の流れは、子どもたちの緊張した心をほぐし、どの学級も和やかな雰囲気になっていきます。

五月は、緊張も少しずつほぐれ、本来の伸び伸びとした様子が見られる頃です。これからが本領発揮といったところででしょうか。マスクを外す子どもたちも増えてきて、さわやかな素顔の笑顔もたくさん見られるようになってきました。

さて、最近では塾やお稽古事に通う小学生も多くなっているようです。そのせいか「塾でのお勉強だけで十分」という意識がどこかに芽生え、自らの意思で勉強する子が減っているかもしれません。

「予習や復習」「家庭学習」の言葉が浸透しづらくなってきましたが、家庭学習での「少しの努力」と「継続」を呼び掛けて参ります。

学校では、子どもたちが受け身の学習ではなく、自ら進んで学習に取り組み「わかる」喜びや学びの成就感が持てるようになって欲しいと考えています。学習への意欲を引き出し、学校生活そのものを「楽しい」と実感して欲しいと思います。子どもたちが「勉強がわかる」「楽しい」と感じられるような取り組みが必要です。自らの意思で学習に向かうことが「わかる」こと、「できる」ことへの入口になれば幸いです。家庭学習の充実に向けて、ご家庭においては「誉めて励ます」の声かけ等をしながら学ぶ意欲を高めたいものです。無限の可能性を秘めた子どもたちが、それぞれに精一杯、美しくいろんな花を咲かせて欲しいと切に願います。二十八日の日曜授業参観では皆様のお越しをお待ちしております

「言葉づかい」に気をつけよう

5月10日体育館での校長講話は「言葉づかいについて」子どもたちは以下の内容を静かに聞いてくれました。

お友だちの言った なにげないことば。それが、言った方の気持ちとは違って、相手に伝わることが時々あります。言われた相手は「いやだなあ」と感じ、心の中に「重し」のように残ってしまいます。それはもう「いじめ」に近いことばとなってしまいます。「いじめ」には、なぐる、ける等の暴力や嫌がらせ等がありますね。また他にも、無視したり、のけものにしたり、仲間はずれにしたり、物を隠したり、心当たりのない噂を流したり、ひやかしたり、悪ふざけしたり等、いろいろな「いじめ」がありますが、言葉づかいの「いじめ」は、目には見えない場合が多いです。いじめた方は気がついていなくて、なにげない一言が「いじめ」となることも多いのです。どんな理由があっても、相手の身体や心を傷つけてしまうことは、「いじめ」になってしまいます。

「いじめ」をなくして、解決していくためには、周りのお友だちからも「それは、よくないよ。」って注意してあげることがとても大切です。また、されて嫌なことは、先生やお家の人にしっかり伝えることも必要です。

注意されたり、悪かったと気づいたら、すぐに「ごめんね。気をつけるね。」と、優しい気持ちで伝えることがとても大切なことです。一番の解決方法ですね。

私たちは、同じ人間として、この世に生まれてきました。すべての人が、みんな同じように大切にされなければなりません。相手を大切にする人は、自分も大切にできる人です。「いじめ」をするのは人間。だから、「いじめ」をなくしていくことができるのも、人間。みなさんの一人一人の力で、楽しく過ごせる学校にしていきたいと思います。

「良い姿勢」で学習に向かう大切さ

本校では、学習に取り組む前に学習の構えを大切にしています。それが黙想した後に「良い姿勢」です。腰骨（こしほね）を立てて学習・生活することにより、子どもの主体性を確立し、より良い人間性の確立をねらいとするものです。



腰骨が立つと次の効果があるとされています。

- ①時間のけじめや感受性が高まる。
- ②やる気・集中力が高まる。
- ③心身のバランスが保てる。
- ④身のこなしや振る舞いが美しくなる。
- ⑤内臓の働きが良くなる。

子どもたちは、日々の授業始後に「良い姿勢」の声かけで黙想して腰骨を立てます。このようなことを継続していく中で「けじめをつけて生活する」「学習に向かう構え」をつくるのが習慣となり、子どもたちの生き方の姿勢として定着していく効果に期待しています。

「1年生を迎える会」1年生の入学を坂田っ子みんなでお祝いしました

全児童が待つ体育館へ、1年生と6年生が手をつなぎながら入場して始まった「1年生を迎える会」。各学年の心のこもった挨拶やダンス、プレゼント、そしてゲームで1年生の入学を祝いました。1年生は、嬉しそうな満面の笑みでお礼のあいさつを行いました。楽しくて素敵な時間になりました。お疲れ様でした。